

おおわきじょう

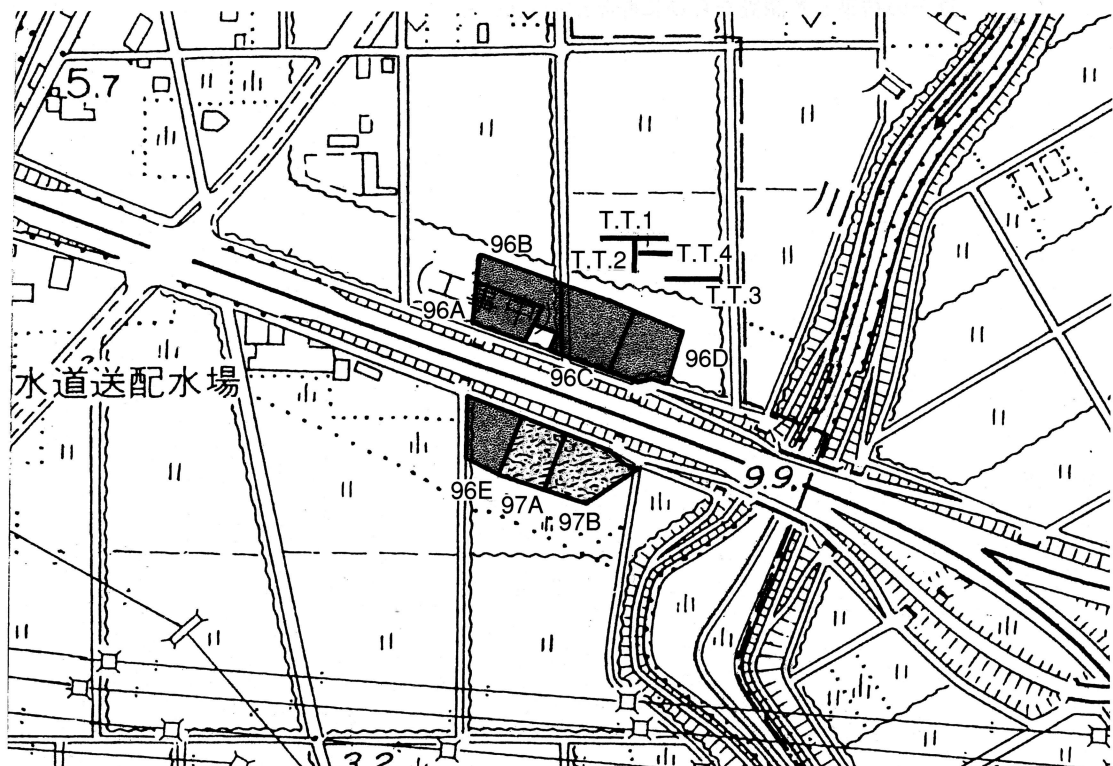
大脇城遺跡範囲確認調査

調査の経過 大脇城遺跡は豊明市栄町梶田および元屋敷内に所在し、境川の支流である正戸川右岸の沖積地に立地する。1996・97年度に実施した発掘調査で、16～17世紀の城館跡を中心とする遺跡であることが判明している。

今回の調査は、第二東海自動車道関連施設予定地内にテストトレンチ（T.T.1～T.T.4）を設定し、層序断面観察と遺構・遺物の検出作業を行い、遺構の有無、遺物の出土状況等から遺跡範囲の確認を目的として実施した。調査面積は250m²である。

調査の結果 調査の結果、全てのテストトレンチとも、耕作土（表土）直下で地山に達し、その上面が遺構検出面となっており、T.T.1とT.T.3およびT.T.4において溝6条を検出したが、遺物が皆無であるため、遺構の厳密な時期決定には至らなかった。ただ、これらの遺構については、規模や断面形状に差異があるものの、埋土がほぼ同一と認められるので、同時期に存在した可能性が考えられる。また、隣接地における過年度調査結果に依拠すれば、埋土の状況や軸線方向等がよく符合し、これらの遺構は戦国期から近世にかけての「大脇城跡」の一部を構成するものと考えられる。以上のことから、今回の調査対象地内においては、これらの溝群が展開するT.T.2よりも東側の部分が遺跡範囲と考えられる。

（福岡晃彦）



調査区位置図（1：5,000）